

おぶちゃん連絡帳(電子@連絡帳)を活用した 市民の健康長寿への取組 ～市民と医療介護専門職間の 「骨折・二次性骨折予防」情報連携～



コンソーシアム名：大府市スマートシティ推進協議会
構成員：大府市、国立長寿医療研究センター、
株式会社インターネットイニシアティブ

発表者：大府市高齢障がい支援課 太田

大府市公式マスコットキャラクター
「おぶちゃん」

目次

- はじめに
- 事業概要
- 実証結果について
- 今後について



はじめに 課題の認識

75歳以上になると介護認定のリスクが高くなる

【要介護・要支援認定者数(令和5年3月31日現在)】

(単位:人)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
65歳～75歳未満	33 (8.6%)	82 (21.2%)	48 (12.4%)	88 (22.8%)	55 (14.2%)	47 (12.2%)	33 (8.6%)	386
75歳以上	275 (9.3%)	496 (16.7%)	532 (17.9%)	578 (19.5%)	425 (14.3%)	395 (13.3%)	267 (9.0%)	2,968
合計	308	578	580	666	480	442	300	3,354



はじめに 課題の認識

75歳以上の入院患者は骨折による入院が多い

【市内中学校区別の入院患者の疾病状況】

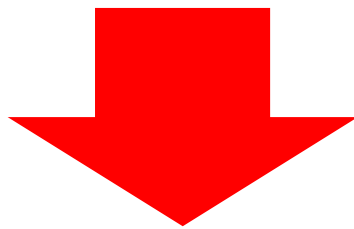
(単位:件)

R4年後期高齢 (レセプト件数)	男性			女性		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
大府北地区	脳梗塞	肺炎	狭心症	骨折	うつ病	関節疾患
	26	25	24	73	39	35
大府中地区	脳梗塞	骨折	腎臓病(透析あり)	骨折	脳梗塞	骨粗しょう症
	75	45	36	91	72	44
大府西地区	脳梗塞	不整脈	肺がん	骨折	脳梗塞	関節疾患
	63	39	33	100	56	44
大府南地区	脳梗塞	骨折	肺炎	骨折	クモ膜下出血	脳梗塞
	51	28	21	67	27	26

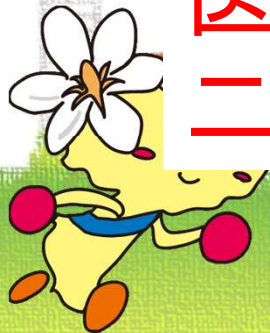
はじめに 課題の認識

◆骨折患者の現状

- 一度脆弱性骨折を起こしてしまった場合、再骨折の危険性は非常に高く、初回骨折1年後の再骨折のリスクは、骨折のない人に比べて**2.7倍**高いと言われている。
- 初回骨折を接合する急性期治療を終えた後も、骨粗しょう症の治療を継続する必要があるが、大腿骨骨折1年後の骨粗しょう症治療率は**約2割**にとどまる。



**医療介護費用、介護認定率の低下のために
二次性骨折予防に取り組むことが必要**



はじめに

コンソーシアム設立の背景、応募経緯

- 国立長寿医療研究センターの地域医療連携室でおぶちゃん連絡帳が活用されていた。
- 二次性骨折予防に取り組んでいる国立長寿医療研究センターに、本市における医療介護関係者の情報連携ツール（おぶちゃん連絡帳）を活用した仕組みの相談。
- 本市においても骨折が介護認定率の増加につながっている課題であると認識していたため大府市、国立長寿医療研究センター、株式会社インターネットイニシアティブでコンソーシアムを設立し、実証事業に応募。



事業概要



実証実験の内容

◆二次性骨折予防の課題

- 患者の約9割は地域の他の病院、診療所（内科、整形外科など）で治療を続ける。
- 患者本人が過去の治療に関して伝え、治療を受ける必要がある。
- 多くの患者は高齢者であり、病院受診時に自らの過去の既往歴・処方歴に関して説明することが困難。



大府市内の医療介護関係者の多職種連携ツールである、**おぶちゃん連絡帳**を活用し、患者の退院情報、治療経過の情報を共有するとともに、「**ここの一と**」（患者本人や家族も参加することができる機能）を活用し、二次性骨折予防に取り組む。

実証実施期間、実証スケジュール

- 実証実施期間 2023年10月から2024年2月末
- 実証スケジュール

	2023年 9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月
システム導入・医療 介護関係者調整		<p>カスタマイズ</p> <p>★ 10/13FLS機能リリース</p>	<p>★ 11/27 個別説明 大府ファミリークリニック 寺田先生</p>	<p>★ 12/1 個別説明 村瀬医院</p> <p>★ 12/22 個別説明 柘ヒルズ内科クリニック</p>				
運用期間			<p>★ 11/29 患者家族へ「この一と」 の説明、登録支援</p>			<p>★ 2/15 患者家族へ「この一と」 の説明、登録支援</p>		
評価・報告書 作成	<p>★ 9/15 キックオフミーティング</p>		<p>★ 11/7 定例会</p>		<p>★ 12/25 定例会</p>	<p>★ 2/6 定例会</p> <p>★ 2/20 定例会</p>		
成果発表会						<p>報告書作成</p>	<p>★ 3/22 成果報告会</p>	



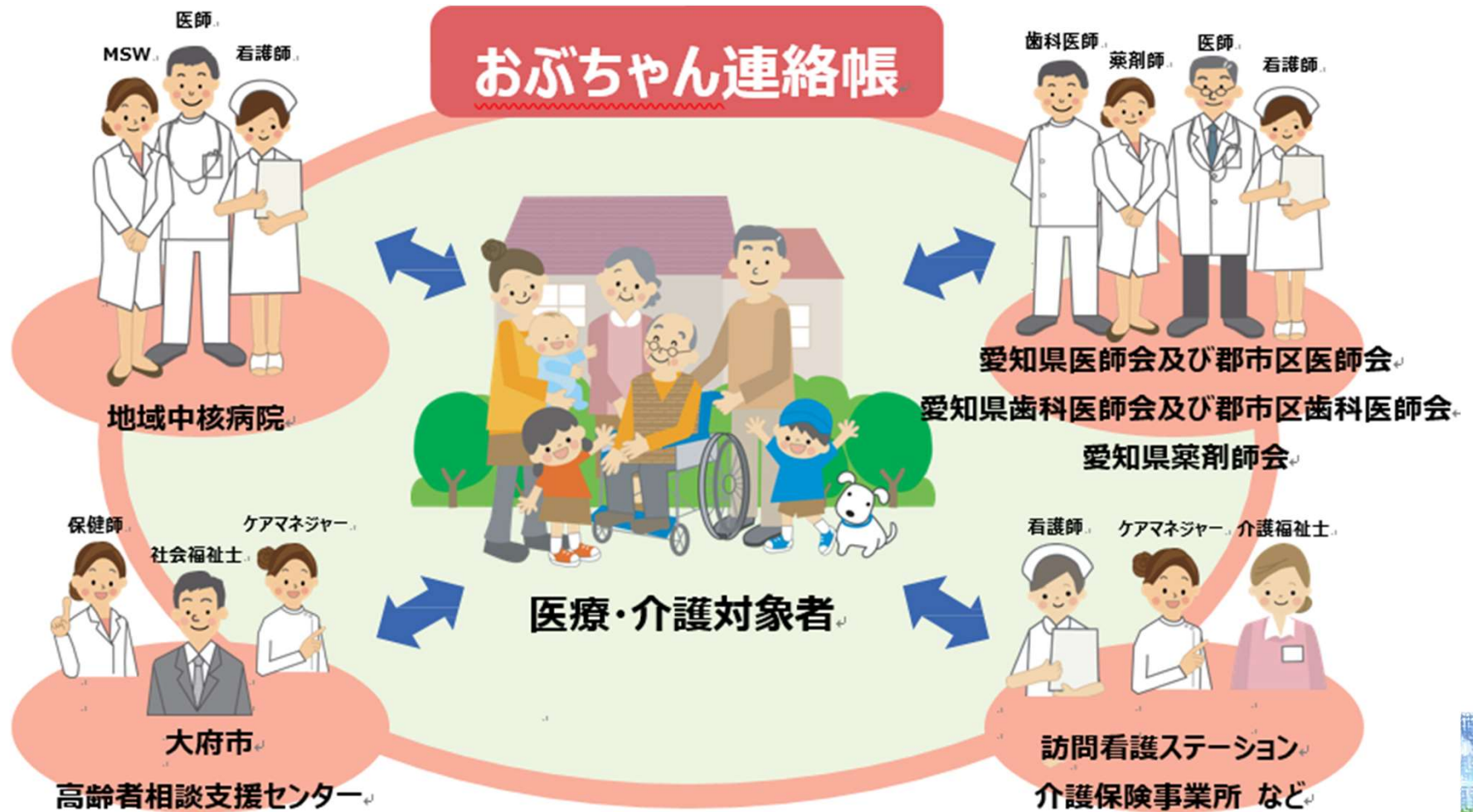
体制（役割分担）

名称	役割
大府市	本事業の実施責任者、事業全体の統括管理及び運営
国立長寿医療研究センター	介護予防サービス（骨折予防）推進支援、専門医療分野における評価軸策定支援、医療介護関係者調整
大府市在宅医療介護連携推進協議会	介護予防サービス（骨折予防）推進に関する地域医療介護連携
株式会社インターネットイニシアティブ	アーキテクト及びICT環境サービスの提供・運用・セキュリティ管理、プロジェクト計画立案と推進管理、医療介護関係者調整支援、会計管理



おぶちゃん連絡帳(電子@連絡帳)とは

医療介護が必要な人を支援するための医療介護関係者の情報連携ツール



おぶちゃん連絡帳の機能

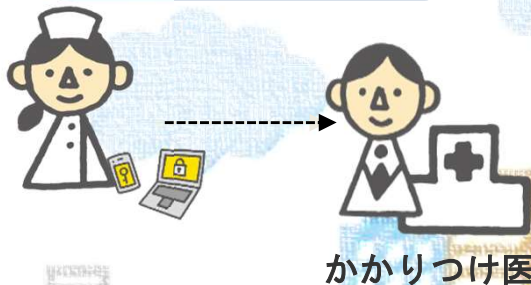
● 医療・介護連携

多職種での患者訪問結果の情報共有

(訪問診療の結果、バイタル情報、患部の写真、運動機能の動画)

(事例)

訪問看護師から、
かかりつけ医への
情報連携



写真で分かりや
すい！！

Dr 在宅 幾三 ((デモ) 豊川クリニック) 2015/02/23 13:49

訪問さん、いつもありがとうございます。

やはり、少しずつ衰弱が進んでいますね。経過からは当然の経過であり、訴えがあれば対処する方向でいくしかないのでは考えています。

詳細表示

返信

No 訪問 頼子 ((デモ) 豊川訪問看護ステーション) 2015/02/23 13:48

在宅先生、関係者各位

本日、定期訪問でした。

P1000140.JPG	P1000142.JPG	P1000143.JPG
ダウンロード / 拡大	ダウンロード / 拡大	ダウンロード / 拡大

拡大画像

ダウンロード / 拡大 ダウンロード / 拡大 ダウンロード / 拡大

愛知県 ※49市町村(全国)

【名古屋医療圏】

急性期病院

NUCAN 電子@連絡帳
名古屋大学大学院医学系研究科
循環器内科 / 肺高血圧先端治療学寄附講座

【尾張中部医療圏】

地域人口: 16.2万

レインボーネット
北名古屋市、清須市、豊山町

【尾張西部医療圏】

地域人口: 38.1万

ささえいネット一宮
一宮市医師会在宅医療サポートセンター

地域人口: 13.7万

なおいネットいなざわ連絡帳
稲沢市高齢介護課

【海部医療圏】

地域人口: 32.8万

つながるまい海部・津島
津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛鳥村

【知多半島医療圏】

地域人口: 8.9万

おぶちゃん連絡帳
大府市医療・介護ネットワーク協議会

地域人口: 11.2万

東海へいしゅうくんネットワーク
東海市市民福祉部高齢者支援課

地域人口: 8.5万

ちた梅子ネットワーク
知多市在宅ケアセンター

地域人口: 5.0万

医療・介護おだいちゃんネットワーク
東浦町役場健康福祉部ふくし課

地域人口: 2.6万

あぐネット
阿久比町役場健康介護課介護保険係

地域人口: 5.7万

トコタンとことこ常滑ネット
常滑市高齢介護課

地域人口: 11.8万

だし丸くんネット
半田市福祉部高齢介護課

地域人口: 4.3万

ゆめたろうネット
武豊町役場福祉課

地域人口: 2.4万

浜カッパいきいき電子@連絡帳
美浜町役場厚生部福祉課

地域人口: 1.9万

ミーナネット
南知多町役場厚生部健康介護課

【尾張北部医療圏】

地域人口: 4.6万

岩倉のんぼりネット
岩倉市健康福祉部長寿介護課

地域人口: 15.0万

こまきつながるくん連絡帳
小牧市福祉部地域包括ケア推進課福祉政策係

地域人口: 30.7万

かすがいねっと連絡帳
春日井市地域福祉課地域包括ケア推進室

地域人口: 30.7万

このはネット
愛知県医療療育総合センター

【尾張東部医療圏】

地域人口: 21.2万

瀬戸旭もーやっこネットワーク
瀬戸旭在宅医療介護連携推進協議会 瀬戸市/尾張旭市

地域人口: 5.4万

愛・ながくて夢ネット
長久手市医療・介護・福祉ネットワーク連絡協議会

地域人口: 8.8万

健やかにつしん・ヘルピーネット
日進市役所健康福祉部地域福祉課

地域人口: 4.2万

レガッタネットとうごう
東郷町福祉部高齢者支援課

地域人口: 6.9万

いきいき笑顔ネットワーク
いきいき笑顔ネットワーク連絡協議会

【東三河北部医療圏・南部医療圏】

地域人口: 75.8万

東三河広域連合
東三河電子連絡帳協議会

豊橋市 田原市 豊川市 蒲郡市 新城市 設楽町 東栄町 豊根村

介護認定電子審査システム

【西三河北部医療圏】

地域人口: 48.5万

豊田みよしケアネット
豊田市/みよし市
豊田市みよし市在宅医療・介護・福祉総合ネットワーク協議会

【西三河南部東医療圏】

地域人口: 48.1万

岡崎幸田いえやすネットワーク
岡崎市幸田町保健・医療・福祉ネットワーク協議会

【西三河南部西医療圏】

地域人口: 18.7万

サルビー見守りネット
安城市福祉部高齢福祉課

地域人口: 17.1万

いげたネット
西尾市健康福祉部長寿課

地域人口: 7.0万

はなしょうぶネットワーク
碧南市健康推進部高齢介護課

地域人口: 26.6万

えんjoyネット
刈谷市、知立市、高浜市

実運用中 試験運用/施設参画のみ



実証の具体的方法

【おぶちゃん連絡帳を活用した二次性骨折予防の情報連携の流れ】

①対象患者の抽出

＜対象患者＞

大府市民約8人(国立長寿医療研究センター全体で16人)

＜対象要件＞

- 国立長寿医療研究センターで大腿骨近位部骨折の入院治療を行った患者
- 退院時に治療継続を目的とし、地域の医療介護関係者への情報共有に関する同意が得られた患者
- 二次性骨折予防継続管理料の算定に該当する患者



②医療介護関係者との連携

- 国立長寿医療研究センターがおぶちゃん連絡帳に該当患者を登録、支援チームの作成。
- 患者が通院する「かかりつけ医」、「ケアマネジャー」へ情報共有。
- 市医師団の定例会にて、診療所に取組内容を周知。
- 大府市在宅医療介護連携推進会議にて、医療介護関係者に取組内容を周知、協力依頼。
- 該当患者がかかりつけ医になっている診療所に、事前におぶちゃん連絡帳を活用した連携について個別説明を実施。

【大府ファミリークリニック 寺田先生への説明】



【柘ヒルズ内科クリニック 竹中先生への説明】



実証の具体的方法

③「ここの一と」機能の活用

- 「ここの一と」を利用できる患者本人、家族に取組内容の説明及び登録支援。
- 在宅生活環境(転倒防止・栄養量・運動量・薬継続)の入力を行ってもらい情報共有。
- 「ここの一と」を利用できない患者・家族は、ケアマネジャーなどが訪問にて、在宅生活環境の調査を実施。
- ケアマネジャーから「おぶちゃん連絡帳」を活用して、他の医療介護関係者へ情報共有。

【「ここの一と」連携イメージ】

＜連携イメージ図＞



＜システム連携イメージ図＞



④患者のフォローアップ

- かかりつけ医は、患者の外来受診時に「おぶちゃん連絡帳」で共有された、国立長寿医療研究センターからの治療情報や、患者・家族もしくはケアマネジャーから提供された在住生活環境の情報を活用。
- 二次性骨折につながる危険因子(転倒防止・栄養量・運動量・薬継続)改善を患者に行う。
- かかりつけ医は、外来受診時の結果を「おぶちゃん連絡帳」を活用して、ケアマネジャーに連携。
- ケアマネジャーは、次回訪問時に在宅生活環境の改善が実施されているか確認を行い、結果を「おぶちゃん連絡帳」を活用して、医療介護関係者に共有。
- 国立長寿医療研究センターは、かかりつけ医の外来受診時の結果を地域連携パスにて管理。



実証結果について



おぶちゃん連絡帳に構築したシステム

新規におぶちゃん連絡帳の患者連携画面に「FLS連携シート」とデータベースを構築



① 定型文書にFLS連携シートを構築

② 入力画面(選択式)

③ FLS連携シート(算定連絡票).pdf

この内容で登録

帳票の自動作成⇒添付

FLS対象患者一覧表示

診断名 大腿骨頸部骨折

手術日 骨折合術

「ここの一と」機能の活用①



新規患者/支援対象を登録

すべての患者/支援対象 6件 絞り込み

患者検索

患者/支援対象リスト 6

ここの一と連携 (患者に共有)

ここの一と 2024/02/10 12:35 患者に公開

退院して2週間経ちました。
杖使って歩いています。
デイサービスも週4回通っています。

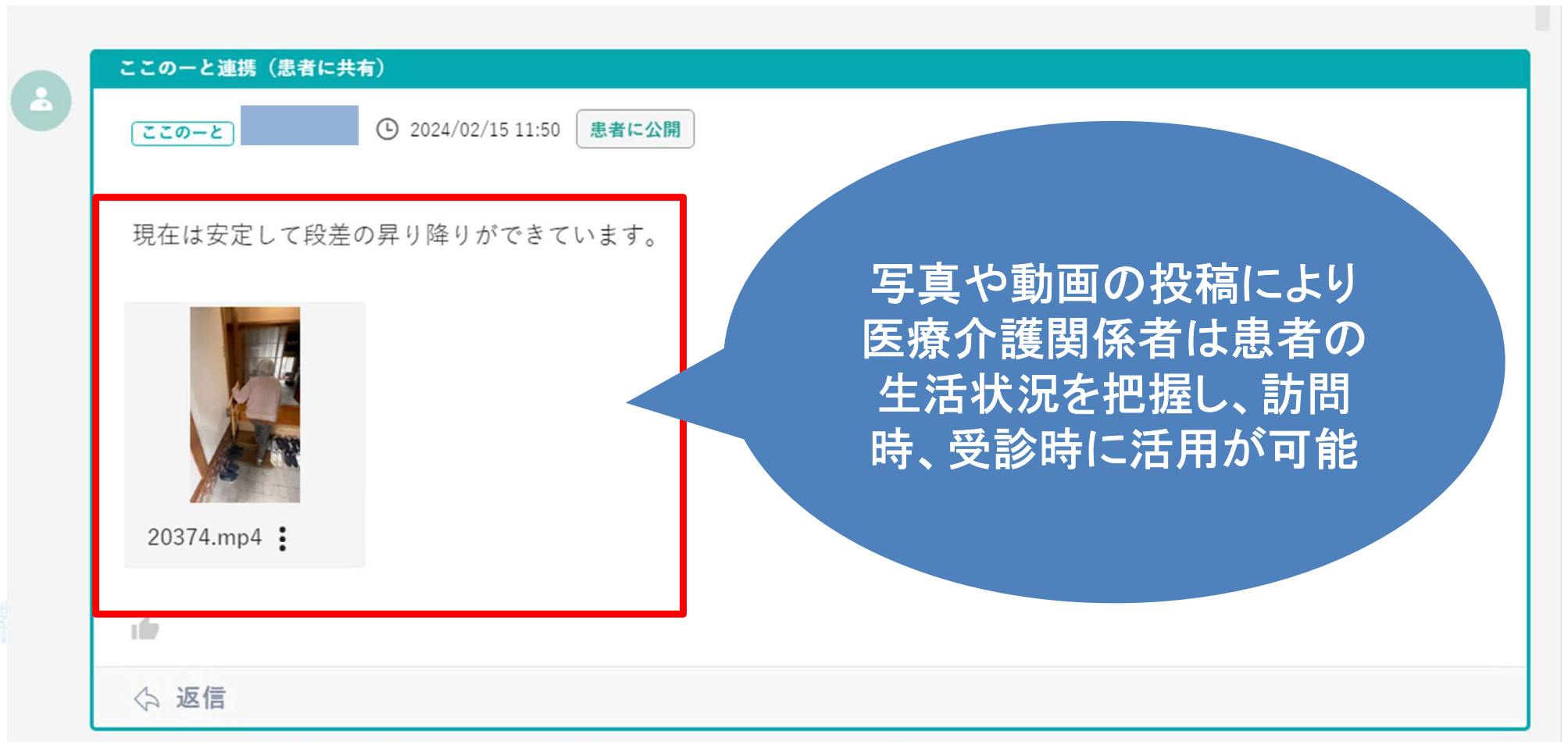
1 山田 小桜里 (Ns.) さんがボタンを押しました

返信

患者家族から退院後の在宅生活における生活状況等の投稿により医療介護関係者が同時に情報共有。



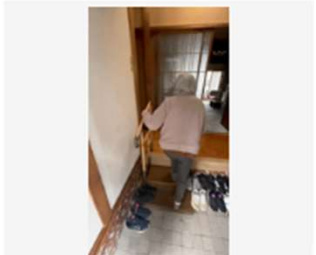
「ここの一と」機能の活用②



ここの一と連携 (患者に共有)

ここの一と [Redacted] 2024/02/15 11:50 患者に公開

現在は安定して段差の昇り降りができています。



20374.mp4

返信

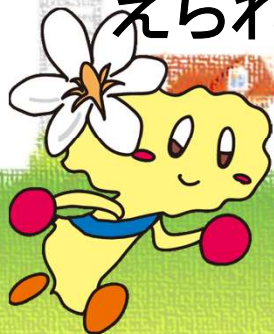
写真や動画の投稿により
医療介護関係者は患者の
生活状況を把握し、訪問
時、受診時に活用が可能



【医師】からの利用に関する声①

◎村瀬医院 村瀬 敏之先生

- 今回1名の患者で国立長寿医療研究センターさんとの連携で利用しました。
- システムは分かりやすく、おぶちゃん連絡帳で連携帳票を作成することができ、また予め設定された関係者にすぐに帳票を送付できるので、**医師の負担軽減**にもなります。
- 外来で来られた患者さんご本人は、国立長寿医療研究センターに処置状況が伝わっていると安心され、こちらも医療介護関係者が連携して二次性骨折予防に取り組んでいることが伝えられ安心です。



【医師】からの利用に関する声②

◎柘ヒルズ内科クリニック 竹中 徳哉先生

- 今回1名の患者で国立長寿医療研究センターさんとの連携で利用しました。
- 連携する帳票は**とてもわかりやすく**、日常的に利用するおぶちゃん連絡帳で連携帳票を作成できることは大変便利です。
- 1画面の中で作成から連携まで可能であり、別途Excelなどをパソコンにダウンロードする必要もありません。
- 今後、ますます国立長寿医療研究センターと連携を深める意味での必要なシステムです。



【医師】からの利用に関する声③

◎大府ファミリークリニック 寺田 順二先生

- おぶちゃん連絡帳に新たに構築されたシステムをみて、**入力する項目がチェック項目式であり、大変わかりやすい**と思いました。今後の患者連携で利用します。
- おぶちゃん連絡帳を活用した連携をすることで**二次性骨折予防継続管理料3(500点)の診療報酬加算を取ることができる**ため参加しやすい。



【患者本人、家族】からの利用に関する声

- 現在の自身の生活状況をいつでも医療介護関係者と共有することができるので、**安心して生活することができる。**
- いつでも専門職の人とつながっていることで**安心できる。**
- セキュリティ上仕方がないが、「この一と」にログインする度にワンタイムパスワードの発行が**手間を感じる。**
- 高齢者にはスマートフォンの使い方が分からないため、写真や動画の投稿は**ハードルが高い。**



実証の成果

- 医療介護関係者の負担を減らすだけでなく、患者本人や家族の負担軽減にもつながった。
- 「ここの一と」の活用により、患者や家族は次の外来をまたずに、生活環境の情報を発信することで不安の解消につながった。
- 医療介護関係者と患者本人や家族が双方向に情報連携をすることができたため、より切れ目のないケアの提供をすることができた。



実証の成果

【アウトプット指標】

骨折、二次性骨折予防の連携に参加した市民(患者)数

8人

連携に参加した医療介護専門職数

26人
(医師、看護師、臨床心理士、管理栄養士、理学療法士、放射線技師、薬剤師、ケアマネジャー、介護福祉士)



該当患者の1年以内の再骨折ゼロ！



今後について



今後の課題

① 該当患者の拡充

本事業での該当患者の要件

- 国立長寿医療研究センターで大腿骨近位部骨折の入院治療を行った患者
- 退院時に治療継続を目的とし、地域への医療介護関係者への情報共有への同意が得られた方
- 二次性骨折予防継続管理料の算定に該当する方

刈谷豊田総合病院、藤田医科大学病院、大同病院などの近隣市町の急性期病院の患者の対象も検討が必要



今後の課題

②患者のフォローアップ

- 二次性骨折予防継続管理料の算定は、初回算定月日から1年が限度

2年後、3年後の患者のフォローアップにつながない...

継続して医療介護関係者がフォローできる体制が必要



他市町村への横展開

- 電子@連絡帳の活用により、ほとんどの市町村の医療介護関係者同士が連携して患者の支援をすることができるため横展開が容易。
- 連携シートや地域連携パスといった入力フォーマットを活用することで、簡単に医療介護関係者だけでなく患者本人や家族の負担の軽減につなげることができる。
- 二次性骨折予防に限ることなく地域連携パスを活用し、継続的に管理することが必要な支援において活用することが望める。



今後の展開

- 引き続き大府市、国立長寿医療研究センター、株式会社インターネットイニシアティブと連携を図りながら二次性骨折予防に取り組む。
- 大腿骨近位部骨折患者は年間100人程度（推定）のため、国立長寿医療研究センター以外の急性期病院とも二次性骨折予防の連携を検討する。
- 介護予防予備軍のフレイル患者に対してもおぶちゃん連絡帳を活用し、早期段階からの骨折予防のアプローチを検討する。

要介護認定率の低下、医療介護費用の社会保障費の削減、高齢者の健康長寿を目指します！



ご清聴ありがとうございました

